

## 議 事 録

会議の名称	(仮称) 研究学園小学校、研究学園中学校に関する保護者説明会
開催日時	令和3年7月8日(木) 開会 19:00 閉会 20:20
開催場所	つくば市役所 本庁舎2階 会議室201
事務局(担当課)	教育局 学務課
出席者	学園の森義務教育学校保護者 37名
	事務局説明者 教育長森田充、局長吉沼正美、次長兼教育施設課課長飯泉法男、次長貝塚厚、学校教育審議監根本智、学び推進課課長横田康浩、学務課課長下田裕久、教育施設課課長補佐大口勝也、こども育成課課長吉田和敏、スポーツ施設整備室主査島田恭利、中央図書館副館長松浦智恵子、公共施設整備課課長補佐鈴木聡、公共施設整備課係長須藤公一、教育施設課主任小菅誠也、教育施設課主事小池祐輝
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 教育長あいさつ</li> <li>3. 職員紹介</li> <li>4. 説明事項               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 通学区域について</li> <li>(2) 建設概要について</li> </ol> </li> <li>5. 質疑応答</li> <li>6. 閉会</li> </ol>
1	開会
2	<p>教育長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。つくば市教育長の森田充と申します。どうぞよろしく お願いいたします。本日はご多用の中、そして、このような遅い時間になり ましたけれども、皆様にはお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます</p>

います。また、皆様には日頃から、つくば市のこの教育、様々な教育について、ご理解そしてご支援を賜りましていること、改めましてここで感謝を申し上げます。これまでにお知らせしましたように、児童生徒急増に対応するため、(仮称) 研究学園小学校、中学校を、令和5年4月に開校する予定としております。新設校の学区につきましては、昨年度開催しましたつくば市学区審議会において、慎重に審議を重ねていただきました。学区が変更となる予定の皆様には大変ご迷惑、ご面倒おかけいたします。特に、研究学園地区の皆様には、学園の森義務教育学校の開校に伴い、春日学園義務教育学校から学区が変更となり、再度の学区変更という案になりましたこと、大変心苦しく思っているところです。学区審議会答申において、変更が生じる学区としておりますのは、学園の森義務教育学校区、沼崎小学校区、島名小学校区及び葛城小学校区の一部でございます。現在、つくば市では、教育大綱を策定しまして、一人一人が幸せな人生を送ることを、最上位の目標として、教育活動を進めているわけですが、児童生徒一人一人に最良の教育環境を提供することが、つくば市、そして教育委員会の責務であり、新しい学校の設置は、その責務を果たすために必要なものと考えております。施設につきましては、教育大綱の理念のもと、安心安全を第一に、豊かな学習活動を実現し、地域と繋がる学校となるよう、整備計画を策定しております。そして、教育活動、教育内容についても、一層の充実を目指して全力で取り組んでいく所存でございます。皆様には、今後のご心配、ご不安な点もおありのことと思います。本日の説明会では、そのご心配な点を伺い、今後の計画や準備に生かしていくことを目的としております。忌憚のないご意見を頂戴できればというふうに思いますので、よろしく願いいたします。子供たちのより良い教育環境整備のため、今後とも皆様のお力添えをいただきますことを重ねてお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3 職員紹介

### 4 説明事項

(スクリーンを使用し説明)

### 5 質疑応答

研究学園5丁目 男性：新しく研究学園小学校中学校に、今、学園の森に通っている子供たちは、移るか移らないかっていう選択なんでしょうか。それとも、必須でしょうか。学年何年生以上だとか、また兄弟がいるとかいないとか、今決まっていることはあるんでしょうか。

学務課長：今、新しい学校の学区案でお出しさせていただいて、この学区がそのまま決定となれば、今度は、開校する令和5年4月に新小学校1年生から新中学校3年生までのお子さんについては、新しい学校の指定をします。学園の森や他の学校に行かれていても、新しい学区にお住まいの方皆さんに通知いたします。その上で、新しい学校に行くという手続きをされるか、もしくは、他の学校へという学区外の手続きをされるかということになりますので、選択制は今のところありません。

男性：本日ご説明ありがとうございました。先ほどご回答の中にもありましたけれども、通学区域が決定したらというお話だったんですけど、今後どのようなプロセス、時期を経て決定に至るのかを教えてくださいませんか。

学務課長：今回の説明会は、今日は初めてであと3回行います。そのあとは、地域住民の方を対象とした説明会を実施いたします。その後、皆さんの意見等を踏まえて、この学区について再度検討した上で、最終的には教育委員会で規則の変更があります。この規則の変更がいつ決まるかを今のところお伝

できないんですが、いつまでに決めなければいけないというのがあります。それは、今回開校が令和5年4月ですので、前の年、令和4年11月に、新しい学校の学区のお子さんに就学通知をお出しする必要がありますので、遅くとも10月までに、規則の変更が必要でして、そこがタイムリミットになります。いつというのは、ちょっとすいません、今のところは決まっていないです。

研究学園5丁目 男性：配置図の方を見ると、新しい学校のクラス、教室の数が、小学校は3クラス、中学校は各学年2クラスっていうふうに見えるんですけども、まずその認識で合っていますかっていうところと、仮にそれが合っていたとしたら、学級数の推計の数を見ると、その教室の数が足りなくなるのが、もう早々にやってくるように見えるんですけど、そのあたりはどうなんでしょうか。

教育施設課長：ありがとうございます。今の学級数の話の方のご説明を申し上げます。まず、普通学級分18クラスという形、3クラス掛ける小学校ですと6学年で18クラスという形で、図面の方がなっております。また、中学校の方が、1学年2クラスで、3学年ですので6学級となっておりますけども、令和8年度に大体ピークを迎えまして、その時に、大体普通教室で小学校ですと19クラス程度、中学校は13年度ごろにピークを迎えるであろうという予測になっておりまして、その頃に9クラス程度ということを見積もって推計で、そのような数を想定しております。それに対応できますように、小学校ですと、最大でそこにプラスアルファも当然考えられますので、普通クラス最大で22学級、これは多目的スペースを普通教室に転用するといったことを考えまして、22までは対応できると考えております。また、中学校も同様に、9クラス分の学級数に転用することで対応できると考えているところです。

研究学園2丁目 男性：今日も、草を刈っていて、あそこは始まったのか。

公共施設整備課長補佐：はい、始まりました。議会の方の議決がございまして、6月25日に議決されまして、その次の26日から本契約という形になっております。工事の方、行うにあたって、周辺の住民の方には、ポスティングという形でお知らせさせていただきまして、まず草刈りから行うという形で始めさせていただいております。

研究学園2丁目 男性：あのアンドウハザマが持ってきたペーパーがスタートということか。

公共施設整備課長補佐：はい。

研究学園2丁目 男性：全然そういう風にこちらは認識していない。何をやっているんだと思って、スタートからきれが悪いなと思っている。スタートしたということなのか。

公共施設整備課長補佐：はい、スタートしております。

研究学園2丁目 男性：ちなみに、ダンプが入ってきて経路について議員にも話しているが、どうなっているのか。安全第一ということをお教育長も話していたが、どのように動線をとってやっていくのか。

公共施設整備課長補佐：工事の車の搬入に関しましては、イエローハットとローソンの信号の交差点から進入する形で考えておりまして、そちらの道路が道路の部分と、歩道の部分、歩車道分離という形の道路になっておりますので、距離は250mぐらいあるんですけども、安全運転で徐行運転等でやらせていただきたいなというふうに考えております。

研究学園2丁目 男性：ということをお紙に書いて、住民の皆さんに配ったり、渡してもらったりしないのか。

公共施設整備課長補佐：配布した資料の中に、工事関係車両の動線ということで、入れさせていただいてはいたんですが、はい。

研究学園2丁目 男性：今日の資料ということか。

公共施設整備課長補佐：今日の資料は、建物の概要説明ということでしたの

で、工事の動線の方までは入れておりません。

研究学園 2 丁目 男性：アンドウハザマが持ってきた書類の中に入っているということか。アンドウハザマに聞いて大丈夫なのか。

公共施設整備課長補佐：はい。その通りです。もしあれでしたらば、こちら公共施設整備課の方にも、お聞きいただければ。

研究学園 2 丁目 男性：ではアンドウハザマに聞きますので、連絡がいくことを伝えておいてください。

公共施設整備課長補佐：はい、わかりました。

研究学園 5 丁目 男性：質問が 1 人 1 回ということなので、内容が 3 点あるんですけれども、ちょっとまとめてお話しでいいですか。まずですね、グラフの見方が、ちょっとわからないので教えていただきたいんですが、資料の 1 番後ろのページ学区分割後児童生徒数推計。こちらで 1 番後ろのページですね、令和 5 年度、青と赤になっていて、合計で 2882 名。赤い数字が 748 名ということで、これが、その 1 枚前のページの、令和 5 年度の一番下の数字、748 名と一緒になるのかなと。この下の青いところですね 2134 名。これが後ろから 3 ページ目ですかね、青いページの令和 5 年度の 2134 名、合計で 2882 名ということだと思んですが、この赤い数字の 748 名っていうのは、研究学園小学校中学校の児童数の合計の数、この学園の森を分割してできるはずなんですけれども、地図を見ますと、現在学園の森の学区の外からも生徒さんが集まってくるように、見えます。例えば、学園南 1 丁目とか、ここのですね、外側の児童の数は、含まれているのか、含まれていないのか。

学務課長：今回の数値に学園南 1 丁目の数値が入ってるかどうかっていうことでよろしいですか。この学園南 1 丁目の数値は、この中に入っております。

研究学園 5 丁目 男性：そうするとですね、合計で、1 番最後のページですね、2882 名とありますけれども、これは、この、赤い矢印があるページ、学園の森義務教育学校の、このページで最終的に 3243 人、こんなマンモス校に

なっちゃいますよっていう数字が書いてあるんですけども、これ1番後ろのページもですね、3243人なんですね。これはどうして一致するんですかね。外側の子供たちも入っているのに、学園の森じゃない子供たちも入っているのに、その数字もここに入っている。

学務課長：開校した時の状況とすると、学園の森の学区が決まっていますが、それ以外の学区外の方も大分いた状況もあって、特に学園南1丁目は、ほとんど学園の森に行っている状況もありましたので、その数値も入れた形での推計というのは一度してました。

研究学園5丁目 男性：たまたま一致したということですか。

学務課長：当初の推計のときから、学園南1丁目というのは、推計の中に、組み込まれていたもので、たまたまではなく、最初から、学区ではないんですけども人数が入っていたのでその推計としては入れていました。

研究学園5丁目 男性：今投影されている前のページ出してもらっていいですか。オレンジのページですね。ここも3243人とぴったりの数字があるんですけど。

学務課長：全部同じ数値です。

研究学園5丁目 男性：同じ数字、ごめんなさい、僕の理解が全く追いつかないんですけど。これは学園の森義務教育学校の令和7年度の想定される数が3243人ですよ。この1番後ろのページは、青いところが、分割後の学園の森の生徒さん、赤いところが、研究学園小学校中学校の合計の数字。ただ、そこには、今の学園の森じゃない学区の子たちも入っている。数字合わないような気がするんですが。

学務課長：最初の推計の時から、状況として学園の森が開校する時から、学園南1丁目の方ほとんどが、ほぼ全員のような状況が学園の森に就学している状況がありましたので、学区ではないですけども、そちらの方の人数として推計を最初からしていた部分がありますので、この3243人が、学園南1丁

目については、推計の中に、学区ではないけども人数としては入れていたということになります。

研究学園5丁目 男性：そうしますと、中東原新田と面野井も新たに、研究学園小中学校に加わるということですが、ここもみんな今越境して、学園の森義務教育学校に行っているってことですか。

学務課長：学園南1丁目は学区外で学園の森にほとんど行っています。中東原新田も、ほとんど行っています。面野井なんですけれども、今、島名小学校でして、今のところ誰1人も学園の森の方には来ていないと思います。

研究学園5丁目 男性：そうすると、これ数字おかしいですね。

学務課長：数値上、この当初の推計の中には面野井は入っていないんですけども、面野井自体の人数的には少ないような状況です。1桁とか、10人いないような人数になります。

研究学園5丁目 男性：そうしますと、学園南1丁目と中東原新田というところは、今現在でも、学園の森に行っていると。

学務課長：はい。中東原新田は、人数的にはものすごく少ない、5人とかよりも少ないような人数です。学園南1丁目は人数が多いところですので、推計として入れております。

研究学園5丁目 男性：2点目がですね、現在の丁目ごとの人数が載っていて、そのその他っていうところの人数が結構いたので気になっていたんですが、それがそういうことっていうことですかね。

学務課長：はい。現在の学園の森の住所ごとの人数のところですか。

研究学園5丁目 男性：そうですね、はい。

学務課長：その他というのは、文字どおり、上にあります学園の森から東平塚までではない、地域のところから来ている方という意味でのその他になります。

研究学園5丁目 男性：越境してる子たちという認識でいいですか。



学務課長：越境というか、こちらの地域にない方です。

研究学園5丁目 男性：それは学区外の子たちということですか。

学務課長：そうですね、学区外になります。

研究学園5丁目 男性：最後の3点目がですね、オレンジのページで、これページ数振ってあると一番いいんですけど、学園の森義務教育学校児童生徒数推計、6年生と7年生、令和4年度の6年生が、令和5年度の7年生になるかと思うんですが、ここが7名減っているんですね。同じように、次年度は15名、6年度目はまた15名と。これは私立中学校とかに行くから、これぐらい減るんじゃないかなという想定なんですかね。

学務課長：はい、その通りです。私立進学とか転出とか色々あると思いますので、その前後で減るという形で想定しております。

研究学園5丁目 男性：感覚的にもっと多いんじゃないかなと思うんですけども。去年6年生で今年7年生に上がるはずだった子で、減った人数は大体どれぐらいなんですかね。

学務課長：すいません、データを持ち合わせてないので、あとは先ほど私立受験も含めていますが、例えば受験のほかに、転入される方もありますのでそういったことも踏まえて、人数は計算しています。

研究学園5丁目 男性：何が申し上げたいかって言いますと、想定、これだけどんどん増えてきますよという数字が、数字をちょっと膨らましてるんじゃないかなと疑念を抱いた次第です。ごめんなさい、最初の質問の方のお答えが聞こえなかったんですけども、もうこの区域は、新しい小学校ですと決められたら、もうそれは拒否といいますか学園の森に残るということはやらないということよろしいですか。

学務課長：先ほど1人目の方のご質問にお答えさせていただいたのは、学区が決まりますと、この学区内にお住まいで、開校する時に新小学校1年生から新中学校3年生の方の保護者さんに、令和5年4月からの学校は、研究学

園小学校中学校が指定ですよというお葉書きをお出しします。その上で、新しい学校に行くのか、他の学校に行くかという二通りの手続きになります。当然、新しい学校でないところは、学区外申請になりますので、申請書に内容を記載していただいたものを、審議した上で、承認するか承認しないかという話になりますので、強制という形ではないんですけども、手続きをした上で、認められるようであれば、新しい学校でないところに就学ができるということになります。

研究学園4丁目 女性：今の質問に追加という形になるんですが、今現在学園の森に通ってしまして、分割後も学園の森におそらくなるかと思うんですけども、逆に、研究学園小学校に行きたいという希望は出せるんでしょうか。

学務課長：こちらと同じように学区外になります。ただし、一つ違う点がございいます。それは、新しい学区の方には就学通知をお出ししますが、新しい学区でない方については就学通知はいきません。新しく令和5年開校時から、もし、新しい学校希望ということになれば、同じように学区外申請が必要になりますので、手続き上、申請は同じですけども、就学通知はいかないので、ご理解いただければと思います。

研究学園4丁目 女性：では、自分のタイミングで、その就学手続きをして認められれば新しい学校に学区外として通えるという認識でよろしいでしょうか。

学務課長：はい。手続き上は同じになります。11月末頃に通知を出しますので、その頃もしくは12月以降に、希望であれば、学区外申請を出していただいて、その内容を審議した上で、学校の変更を認められれば通うことができるようにはなります。

研究学園3丁目 男性：学区外申請のお話だったと思うんですが、学区外申請をして、その承認される基準っていうのは何かあるんですか。

学務課長：許可基準があります。こちらは、ホームページにも載せていますし、学務課には、紙にしたものがあります。色々な項目がありますので、その項目に照らし合わせて、内容を確認した上で承認するか承認しないかという形になります。

研究学園3丁目 男性：学園の森は、義務教育学校で小中一貫ですけれども、今回、研究学園小学校中学校というのは、一貫ではなく校舎併設されてますけれども、分かれるということかどうかというところと、その場合同じ学校から変わった場合に、教育方針といった方針が変わることで、混乱する場合もあるかと思しますので、その辺りのお考えをお聞かせいただきたいと思えます。

学び推進課長：お答えいたします。新しい学校は、併設型の小中一貫校という形になります。内容といたしましては、義務教育学校と同じで、つくば市内はすべて小中一貫教育の方を推進しておりますので、どちらの学校においても、9年間を見通した弾力的効果的な教育課程を編成しますので、そういった点ではご心配なさらないで大丈夫かなというふうに思います。

研究学園3丁目 男性：ありがとうございます。形式的には小学校卒業するっていう形をとるとのことですか。

学び推進課長：はい、そういう形でございます。

研究学園4丁目 女性：今、卒業式というお話があったんですけども、学園の森義務教育学校は、変わらずマンモス校ということで、研究学園小学校と行事の違いというのは出てくるのでしょうか。

学び推進課長：お答えいたします。まず、義務教育学校は9年間、すべて通してありますので、前期課程から後期課程に行く時に卒業式はございませんが、今度の学校に関しましては小中学校別になりますので、小学校での卒業式、そして中学校で入学式というふうなものが入ってくるのが、一番の違いかと思えます。

研究学園4丁目 女性：ありがとうございます。例えば、参観とか、マンモス校だから、こちらはできない、運動会とかもこちらはできないけど研究学園小学校は少ないのでできますという違いは出てくるんですか。

学び推進課長：子供の数、規模に応じて行事等は設定していくことになりますので、そういった点の違いは出てくるかというふうに思います。

研究学園4丁目 男性：学分割後の学園の森と研究学園の学校の人数とクラス数を見た時に、学園の森の方はですね、例えば1年生で見ると、ずっと9クラスのままで令和7年度まで推移していってます。学区を分割することによってクラス数が減るのかなというのを想像していたんですが、変わらず9クラスのままで、小学校の人数合計で見ると、令和7年度まで徐々に増えていってます。それぞれの学区の人数比を右矢印のこの、赤と青のところで見比べてみますと、人数の差が約3倍の差があります。半分とまではいかないとは思ってはいますが、ここまでの人数差を出した状態で、学園の森は引き続き人数が多い状態で、新しい研究学園小学校中学校に関しては大体平均2クラス、3クラスとなっています。今後のこの研究学園地区の人口増加、小学校中学校の生徒の数の増加とかを踏まえて、どうしてこういうような形で割り振りしたのかご意見お聞かせください。

学務課長：人数割りというのは、おそらく学区の割り方かと思います。学区を切る際、学園の森をどこかで切らなければいけないということがあったので、今回この形でお切りしたのは、他の学校もそうなんですけども、一つの丁目はできるだけ一つで、分割はできる限りしたくないことを前提としてやりました。この学区を切った時に、学園の森1丁目から3丁目は、当然学園の森義務教育学校北側の地区ですから、そこを新しい学区に入れるのは難しいかなと。次に、研究学園2丁目、3丁目については、2丁目は、新しい学校の用地がありますから、当然新しい学校の学区に、3丁目は人数も考えた上で新しい学校としました。4丁目は、人数が結構多いところなので、一番悩

みました。その上で、今回の学区審議会への諮問案は、4丁目は学園の森にしました。それは、遊歩道などを使って、学園の森がすごく近い状況もあったので、地域性とか色々あったことを考えて、最初の案としてお出しして、それをもとに、審議会の中で考えてもらいたいということで作りました。5丁目については、道路で駅前と来夢の杜に分かれていましたので、駅前の方は新しい学校、来夢の杜の方が、学園の森という学区で作りました。当然そのときに、人数差が出たことはあります。その上で、審議会を5回の中で話し合いをしていただいて、人数差があるので、どこかを移した場合にはどうなのかっていうことで提案が出たのが、研究学園4丁目の人数が多いので、4丁目を新設校の学区としてはどうかということで、話し合いをしていただきました。この時には、人数を一度お出しして、それをもとに、学校さんの方と保護者さんの方で、アンケートとか調査をやっていただいた上で、4丁目は、新しい学校ではなく学園の森というご意見があったことも踏まえて、答申は、4丁目が新しい学校ではなく、学園の森にという答申が出たっていうことになります。

研究学園4丁目 男性：今、住民のアンケートという言葉が出ましたが、そこは、住民の意見もある程度反映をしてるとか、考慮には入れているということなんですかね。

学務課長：今回の学区審議会の委員さんにつきましては、保護者の代表の方と、地域住民の代表の方に、区長さんとか区長さんがいなければ、地域の方から出ていただいた方になっていただいて、一回ごとに、資料等を持ち帰っていただいて、地域の皆さんや保護者さんたちに意見を聞いてきていただいて、それを吸い上げて、次の審議会に臨んでいただいて、皆さんの意見がこうですよという意見のお話ししていただいて、審議会委員の皆さんで審議をしていただきました。意見も反映されてるような形にはなっていると思います。それが今回、審議会からの答申という形で出た学区の案です。

研究学園4丁目 男性：わかりました。今、令和7年度までの数字しかない  
ので、直近5年間の数字ですけれども、このまま右肩上がり  
で人口が増加する  
るのではないかと。要は、学園の森の教室が足りなくなるんじゃないかという  
懸念はないのでしょうか。

学務課長：学園の森につきましては、今回お出しさせていただく推計の資料  
というのが、葛城地区の計画戸数が100%になるのが、一番早い5年間と見て  
推計したパターンです。現時点で、こちらで見ますと、計画戸数達成率が高  
いですから、これから先長く、ピークを迎えるとは思ってはいないんです。  
100%で推計をしましたので、あらかじめ大体ピーク時もこの見込んでるような  
状況になるのではないかと考えております。

研究学園4丁目 男性：令和7年度ぐらいがピークで、あとは横ばい、もし  
くはそこから減っていくだろうという想定ということでしょうか。

学務課長：学園の森が、9年ごろがピークで、それからは維持するか、少し下  
がるような形とは思っております。

研究学園4丁目 男性：何でこんな質問したかということ、春日が開校して1  
年目2年目のところで、急に校舎が足りなくなって作ったりとかしていたと  
思うんですけども、そういう急増の校舎のところでは授業を受けたりするって  
よりかはちゃんとした学校の施設で、授業を受けたいと。今何が起こるかわ  
からない状況ですので、初めから計画した学校の教室数の内で、ちゃんと授  
業を受けられるようにして欲しいなど。逆にそれをオーバーするのであれば、  
これから学校作るわけですから、そういったところ人数のことも考慮に入れ  
てですね、もうすでに、工事が始まってしまったというふうに聞いています  
けども、クラスが3クラスとかで、本当に足りないのであれば、早い段階で  
判断していただいて、学園の森の方から、もう少し人数を、研究学園の学校  
の方に移すとかっていったところも、考えていいんじゃないかなというふう  
に思いました。

学務課長：ありがとうございます。推計については、100%になるということで、もうこれ以上ないような形で見積もっております。ただ今のご意見としてお伺いさせていただいて、またこれから検討させていただきたいと思っております。数値については、推計もしましたが、実数値も毎年確認しておりますので、その辺も踏まえて、ご意見として承ります。

研究学園3丁目 男性：施設面での話を伺いたいんですけども、TXの線路に近い側に校舎が建つということで、近隣の方への配慮があったのかなというふうに想像しているんですけども、やっぱり騒音とか、振動とかですね、そういったことが、児童の集中力とか、あと精神的に不安定にさせてありというようなことに影響しないかなというのを心配しています。騒音とかは、どういった窓の仕様にするとか、あと教室どれくらい離すっていうことで、何かある程度シミュレーションされてるのかなというふうに思うんですけども、今も通っているのがやっぱり聞こえますけど、どれぐらいのレベルに、デシベルとか、感覚的なものでもいいんですけど、そういったところを設計されてるのかっていうのを教えていただきたいのと、あと振動はなかなか防ぐことができないと思うんですけども、バックグラウンドのものを測られているのかっていうところを教えていただければと思います。

教育施設課長：ありがとうございます。まず騒音というお話ですけども、設計を行っていく段階で計測をしまして、実際に把握はしているところです。小学校用地付近で計測しますと、70デシベルぐらいに相当する値が計測された形になっております。最初のスライドでも、ご説明しましたように、できるだけ普通教室をTX側には配置せずに、特別教室等を配置して、通常いる学級は、より遠くにとというような計画をしているところです。また、遮音性のあるサッシ等を採用しまして、文部科学省の基準で学校基準というのがあり、騒音の基準値内に収まるような等級のサッシを使用する設計でおります。ちなみに、学校の環境衛生基準では、窓を閉じてるときには、50デシベ

ル以下という数値が示されているんですけども、それ以下になるように校舎、教室内、静かな環境になるように、サッシの等級をそれに相当するものを入れまして、実際まだできてないですが、計算値で言いますと、40 デシベル前後ぐらいになるのかなというような、あくまでも計算値の話になってしまいますが、そういうことで、設計の方は進めました。それから振動に関しましては、実際に TX が通っているときに現地の方も一応測定はしていますが、今、音のように対応しなければならないというふうな値ではないので、今回、騒音の方だけ対応させていただくというふうに考えて設計を進めました。

研究学園 3 丁目 男性：対応すべき値がないから対応しなくていいという話ではないと思うんですけども。

教育施設課長：対応すべき値がないということではなくて、その対応すべき値に至ってないということです。すいません。

研究学園 4 丁目 女性：学外申請をして、ほぼほぼ皆承認されるのか、もしくは、承認されなかった場合、理由としてどういう理由が多いのかをお聞かせ願いたいのと、あと、学園の森は、小さいプールがありますけれども、今度、研究学園小学校中学校の方でできる温水プールの方を、使うことができるのかお聞きしたいと思います。

学務課長：学区外については、先ほどのお話のように基準がありますので、基準に照らし合わせて、内容を確認して審議します。理由については、文書とすると基準に当てはまりませんので、認めませんでしたよという通知にはなると思います。学区外については、申請書の内容が個人個人の内容ですので、それを全部確認した上で、審議しますが、その受け入れ先の学校のキャパシティとか、その学校が例えば受け入れ困難校になっているということも考慮した上で、基準に照らし合わせて、承認するか承認しないかという形になります。



教育施設課長：プールの方につきましては、研究学園小学校中学校の方は、（仮称）みどりの学校プールを使う予定で考えております。ちなみにこの学校プールは、室内型温水プールで、通常よりも長い期間使えるような形で、複数校での使用を考えています。遠く離れている部分もありますので、市の方で用意したバスを使って移動するというのを考えているところです。学園の森の子供たちが、児童生徒数が多くなって近隣の小学校のプールを一部借りて使用してるといようなこともありますので、そこら辺も使っていくということも検討して、調整はしていきたいというふうには思っています。

司会：先ほどの学外申請の件で、スライドに映させていただいたので、もしよろしければ、ホームページにもございますので、ご覧いただければと思います。

男性：ご説明ありがとうございます。今回、説明していただいた資料になかったのですが、ここで質問すべき内容じゃないかもしれないんですけど、もしわかれば、教えていただきたい内容があります。今回学校が変わることなので、一番影響あるのは子供かなと思いますので、その際に、やはり友達と離れ離れになるということもありますので、これを残る側も、新しい学校行く子も絶対出てくると思うんですね。そういった場合に、今どういったケアを考えられてるかっていうところがあれば教えていただきたいなと思っています。

学び推進課長：はい、ご質問ありがとうございます。新しい学校に移る場合も或いは残される場合も、お子様がその心理的負担を感じるというケースは当然あるだろうというふうにこちらでも認識しております。まず一番大事なことは、児童生徒の皆さんの心に寄り添うことがやっぱり一番大切だというふうに認識しております。そのためには、まず、日々の生活の中で、一人一人の様子をしっかりと見ていくことももちろんなんですけれども、定期的にも実施している生活アンケート等でも、学校移ることに関しての不安であったりとか、

そういったことについてはしっかりと見ていくことが必要だというふうに考えています。また、保護者の皆様からもそういったことに関しての相談も積極的に応じていこうというふうに考えておりますので、そのような対応を通して、できるだけ不安がない状態で、新しい学校でのスタートが切れるようにしていきたいというふうに考えております。

男性：例えば、どうしても聞きたい内容がこの後出てきた場合、今回の件とかあると思うんですけど、そういった場合の連絡先とか、そういうのってどっかに載ってたりとかするんですか。

学務課長：今後につきましては、先ほどのスライドで一番最後にお知らせさせていただいた通り、この後のご質問、ご意見については、学校ホームページからご確認いただけます専用サイトからお問い合わせいただけます。それ以外で、どうしてもお伺いしたいということであれば、市役所教育局の窓口がありますので、お電話等でお問い合わせいただくようになると思います。、可能であればホームページでご意見いただければと思いますが、よろしくお願いします。

男性：ケアとかそういったところも、先ほどご紹介いただいたところから、質問させていただければ大丈夫ってことですかね。

学務課長：今日の説明会以降のご質問、この新しい学校に関する質問すべてをお受けいたしますので、そちらにもお問い合わせいただいてもと思います。

研究学園5丁目 女性：学区が変わった後の学区区域ということで地図が資料にあったかと思うんですが、黒枠が学園の森の学区と、赤の新しい学校の枠がありまして、この重なっている部分というのはどのように見たらよろしいのでしょうか。

学務課長：こちらでいくと、黒い部分が、現在の学園の森の学区です。赤い点線が新しい学校の学区ですので、赤い点線の中の方は新しい学区で、黒いところから赤い点線を除いた部分が、今の学園の森学区になります。

研究学園 2 丁目 女性：新しい学校ができたときに、2 丁目の地域の方と、交通動線についてどのように考えているか教えていただきたいです。なぜかという、春日の小学校で、かなり住民の方と、車のお迎えとか、学童のお迎えとかで、トラブルがかなり頻発して、毎月のようにお手紙が届いていたということがありまして、そういうことを避けるためにも、保護者の方のお迎えや学童の方のお迎えについて、住民と、登下校する子供たちと保護者のお迎えの方との安全を図れるようにどのように学校の方でできるのかを教えてくださいたく、思います。

教育施設課長：送り迎えの動線のお話しですけども、研究学園 2 丁目の一番南側に学校用地が位置していますので、例えば雨の日にお子さんを送ってきたりすると、2 丁目の中を車で走ってくる形になるとかなりの交通渋滞が想定されるのではないのかなというふうなことが考えられます。そのため、今回学校の西側拡張用地にグラウンドを作るということで説明させていただきましたが、そちらの用地に、大きな職員用の駐車場を設ける予定となっております。そちらから子供たちが行き来をできるような、例えばグラウンドの中を通ってとか、あとは TX 側ペデを通ってというふうな形にはなってしまいますけれども、子供たちがそちらを通って学校に来るような形で、送っていただくというのを一つは想定してはいるところです。

研究学園 2 丁目 女性：すみません、では確認させていただきます。では、基本的に、保護者の方のお迎えは、その西側のグラウンド側にできた駐車場を上手に利用していただくということでよろしいでしょうか。

教育施設課長：まだ学校が開校してるわけではないので、正式な形ではありませんが、基本的にはそのような形で、極力、2 丁目住宅地内の、渋滞ですとか交通量の激増みたいなものは防ぎたいというふうに考えておりますので、そちらを考えているところです。

研究学園 2 丁目 女性：こちらの児童数と学級数の推計っていうのは、かな

り正確なものだと判断してよろしいでしょうか。

学務課長：最大値で見えていますので、推計ではありますので、100%ではないのではありませんけども、今までの児童生徒、人口すべてをもとに計算は一応しております。あくまで推計としてお出ししていますが、やはり違う部分も出てくるので、乖離があるかどうかは、常に確認はしております。

研究学園2丁目 女性：新しい住宅地ができるとかそういった個体数も、計算に入れて、ということで大丈夫ですか。

学務課長：先ほどの方にご説明させていただいている通り、この開発地域は、計画戸数と計画人口というのがあります。今回丁目ごとに、そのデータをいただきましたので、その計画戸数が100%になるという仮定で、今回推計をしておりますので、すべてを把握は一応した形での計算となっております。

研究学園2丁目 女性：あとですね、もうこれ以上小学校、中学校作る予定はないということでしょうか。

学務課長：現段階では、ここの地域にはこの新しい小学校と中学校という予定だけで、他のところは今のところ考えておりません。

研究学園2丁目 女性：学園の森の、令和7年に2400人になるってことなので、プレハブを作られると思うんですけど、どのあたりに、それは作られるんですか。

教育施設課長：新しい校舎を増築するのではないかというようなお話しですけども、今の推計によりますと、既存の学校、校舎のままで対応できるというふうな推計で考えています。

研究学園2丁目 女性：研究学小学校中学校でもし、溢れてしまった場合、そちらでは、プレハブを作るという計画は今のところないんでしょうか。

教育施設課長：研究学園小中学校では、先ほど申しましたように、子供たちが増えた場合に、多目的スペースとかを転用して対応をするというふうな考えておりますので、現推計の中では、新しく校舎を増築するというふうなこ

とは計画としてはありません。

研究学園5丁目 男性：令和5年度を目指して開校されるということなんですけれども、このご時世何があるかわからないと思うんですが、仮に、令和5年度開校できなかった場合、どのようなプランとかがあるのか教えていただけないでしょうか。

教育施設課長：令和5年度に間に合わないときにはどうするのかというお話なんですけれども、このご時世ですから、どのような天災が起きるかとかもありまして、本当に何が起こるかわからないところもありますけれども、基本的には是が非でも工事の方は、令和5年度4月オープンを目指して進めていくということは、市役所内部でも共通認識ということで持っていますので、そのようにはしていきたいというふうに思っています。

研究学園5丁目 男性：それでは、バックアッププランは全く考えないで、ノープランでいかれると。もしくは、何もなくても、今の対応でできるかというところかと思うんですけれども、それについてはいかがでしょうか。

教育施設課長：基本的に、万が一ですよ、万が一に1年どうしても遅れてしまった、もしくは半年間遅れるという形があるかもという話の時に、あくまでも想定の話ですけれども、その時には教室が足りなくなった場合には、既存の学校の特別教室等を転用して対応するという事は可能かと考えます。

研究学園5丁目 男性：それで対応できるってことです。

教育施設課長：何年もは当然無理な話ですけれども、半年、1年の話でしたら、そこで対応が可能かとは考えます。

司会：ほかにご質問はございませんか。ないようでしたら、事務局から何かありますか。

学務課長：それでは、今後のことについてご説明させていただきます。今回あと3回の保護者説明会を実施いたします。その後、地域の方を対象とした住民説明会を実施いたします。その後に、開校準備委員会というものを立ち

上げて実施していきます。こちらについては、保護者の方を委員としまして学校の校長先生や職員の方も入っていただいて、我々市役所が事務局として入ります。その中で、新しい学校の学校名や校歌、校章、体操服、PTA組織を決めていただくのと、今度は通学路について、実際に登校班で通るルートを想定していただいて、学校までのルートの中で、例えば、カーブミラーが、我々が事前にいろいろ、この辺がカーブミラーとかいうのも必要かなとは確認しますが、やっぱりお子さんの目線とかで見ていただいた時に、この辺にはカーブミラーだけじゃなくて違うものが欲しいかなとかあると思いますので、そういったものを想定していただいて、その要望について、関係各所ですね、警察とかいろいろ要望して、こちらでお願いしていくという形になります。準備委員会も行いながら、規則の改正が終われば、実際に開校を迎えるという形になります。

司会：そろそろ時間も差し迫ってまいりましたので、このあたりで質疑応答を終了させていただければと思います。本日はたくさんのご意見、ご質問をいただきまして、ありがとうございます。本日いただきましたご質問、ご意見、今後実施する地区住民説明会のご意見等を踏まえまして、通学区域の決定や施設建設を進めてまいりたいと思います。本日の説明会資料及び質疑応答内容については、つくば市ホームページに近日中に掲載してまいります。本日の資料、説明内容等に関しまして、さらにご質問やご意見がある場合は、学園の森義務教育学校ホームページからご確認いただけます専用サイトよりお問い合わせください。なお、専用サイトよりお問い合わせいただいたご質問等への回答は個別回答ではなく、市ホームページ上での公表をもってかえさせていただきます。本日は、大変お忙しい中、貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。以上をもちまして「(仮称) 研究学園小学校、研究学園中学校に関する保護者説明会」を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

8 閉会